



# 伊予三島ロータリークラブ

No.50  
令和3.6.11  
第3251回



大正元年（1912）の三島港

三島に帝國鐵道（国鉄）が開通されたのは大正6年9月16日であり、陸海運交通の便が得られたことで活気を呈し、築港機運が熟したとして町勢盛んとなります。また、三島から大阪まで汽船にて17時間を要していましたが鉄道と船船を乗り継ぐ（宇高航路利用）ことで約9時間40分に短縮されました。  
…港整備の話までたどり着きませんでした、時間となりましたので続きはまた次回とさせていただきます。  
(総スライド数43の内、6まで進捗/約14%)

## 第3251回 例会記録 令和3年6月11日

開会 佐藤慎輔 会長

宮崎茂喜君～

### 出席報告

出席会員（34名中）	32名
出席免除	1名
出席率	96.97%
第3249回修正出席率	96.97%

弊社（大高製紙）は本年創業100周年を迎える事ができました（大正10年創業）100年に及ぶ社歴を重ねることができましたのも、ひとえに皆様のご支援があればこそであります。今後とも何卒末永くお引立ただきますよう宜しくお願い申し上げます。

### 会長の時間

- 結婚記念日御祝  
佐藤 慎輔 御夫妻（25年）
- 出席表彰  
宮崎茂喜君（21年）、金崎敏明君（19年）  
石川 勉君（18年）、山内一正君（9年）  
佐藤慎輔君（5年）、伊藤誠史君（2年）

別府 偉君～

先日の幹事杯コンペで優勝してしまいました。今回はニセ優勝ではありません。一緒に回っていたいたW様とは一進一退で戦っていました。お互い足のひっぱりあいでした。太平洋の17番で方向をまちがえて、急斜面で打ち、ダボを打きましたが、何とかたえることが出来ました。

### 幹事報告

佐々木弘実君～

先日のゴルフコンペで準優勝させて頂きました。今回は優勝めざしてがんばりたいと思っております。

### 例会行事

卓話（内部）

川崎直人 会員

大西克弘ゴルフ部幹事～

6月6日の幹事杯ゴルフコンペには大勢参加頂きありがとうございました。別府さん優勝おめでとうございます。これで私のゴルフの幹事は終了です。2年間ご協力ありがとうございました。

### ニコニコ紹介

外山英敏君～

2016年4月から2018年3月末まで、当クラブが世話クラブとなってお迎えしたベトナムからの愛媛大学留学生・米山奨学生のダム・ティーフエン・チャンさんからラインで連絡がありました。結婚して現在妊娠中28週目になると連絡がありました。ニプロ株式会社のベトナム社の工場で4年目になるとのことです。コロナについてはベトナムでも第三波で大変なようですが、結婚と出産とおめでたが続き嬉しいことです。

誕生祝～立花里映様

結婚記念祝～佐藤慎輔 君

出席表彰～宮崎茂喜君、金崎敏明君、石川 勉君、佐藤慎輔君、伊藤誠史君

6月25日プログラム予定  
会長・幹事退任挨拶  
クラブアセンブリー  
(定例理事会)



2020-2021年度国際ロータリーテーマ  
**Rotary Opens Opportunities**  
**ロータリーは機会の扉を開く**  
2020-2021年度国際ロータリー会長 Holger Knaack(ホルガー・クナーク)

事務局 四国中央市金生町下分789-1 四国中央商工会議所内  
http://www.iyomishima-rc.jp TEL(0896) 58-3530  
E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp FAX(0896) 58-6294  
例会 金曜日 12:10～13:10  
■会長/佐藤慎輔 ■幹事/渡邊吉和 ■広報委員長/清家敏満

## 卓話（内部） 三島川之江港の歴史沿革

川崎直人



当地域の郷土史より、港の歴史沿革についてお話させていただきます。幕末動乱より大きく歴史が動いていく中、当地域ではどのような変遷があり港の整備へと至るのかを明治時代の三島地区沿革よりご説明いたします。

藩政時に天領（幕領）・今治藩・西条藩と三つに分かれて統治されていた当地域は廃藩置県以降の行政区画編制により明治11年に「宇摩郡」が発足し同22年に各村が発足、同31年に三島村から三島町となり従来天領であった川之江に所在していた役所や警察署等が三島に移転し宇摩郡の中心地として形成されていきました。

「三島煙草」と喧伝される程の特産であった葉煙草生産は政府方針による専売法施行により制限され、代替として三極の生産が奨励され紙産業発展とともに生産量が増加していきます。また、宇摩郡西部で盛んに栽培されていた「甘蔗」（サトウキビ）は明治28年に日本が統治を開始した台湾より製糖された上白糖等が国内に大量輸入されるようになったことからその生産は衰退しました。

明治時代、三島港には多くの航路が開設されており明治28年「住治平氏」により発起された「宇摩汽船」や「大阪商船（現在の商船三井）」等の船舶往来が隆盛となりました。九州航路より石炭を輸送供給、勃興した紙産業製造品の販路開拓と輸送に繁忙となった時代であり、四国より先行して敷設された山陽鉄道の尾道駅と接続する連絡船としての特色もありました。